

中間の歌
昇りの歌の研究:詩篇 133
スティーブ・ミケル
2024年・10月・6日

おはようございます！

シリーズ全体とつながりましょう...昇りの詩篇...

シリーズの概要: ヘブライ人は年に3回旅をしました。彼らは低地での生活から離れ、神の都エルサレムに向かっていることを知っていました。エルサレムは彼らが「全地の喜び」(詩篇 48) と名付けた場所です。エルサレムに向かって旅をしながら、彼らはこの詩篇のグループ (詩篇 120 から 134) を歌いました。

私たちも旅をしています。私たちは死から生へ、罪から自由へ、灰から美へと移りつつあります。そして旅をしながら、私たちは自分が誰でどこへ向かっているのかを思い出すために、耳を傾け、学び、歌います。詩篇の真ん中にある歌集には 15 の歌 (詩篇 120 から 134) が収められており、神の御前にいる我が家に向かって進む中で、ここからあそこへ、そしてその間のあらゆる場所への旅の計画を立てるのに役立ちます。

ユージン・ピーターソンは、彼の古典作品の中で、巡礼者の比喻を使ってイエスのようになる過程を描写しました...それは同じ方向への長い服従なのです...

巡礼に行ったことがある人はいますか？ **昨年のグランドキャニオンへの私の旅のハイライトをいくつか紹介します。**

神に向かう旅...神の存在を求める...神のために何かをすることよりも、神のようになること...

キリストの足跡をたどるという比喻を共有します...彼の足跡に目を向け続ける...私たちは常にこのように(頭を下げて)生きることはできませんが、立ち止まり、下を向き、私たちの生活を主に合わせて再調整し、再調整することが私たちの生活の定期的なリズムでしょうか？

シリーズのテーマ: 神は私たちがどこへ行くのかを気にかけていますが、私たちがそこにどうやってたどり着くのかにも関心があり、その旅の指示とインスピレーションを与えています。私たちが中間の空間をどのように旅し、その過程でどのような人間になるかが、弟子としての務めであり、美しさなのです。

祈りましょう...

啓蒙 - 彼らは何を知る必要があるか？ 論文の論点を強化するために主要なテキストから 2 ~ 3 のポイントを挙げてください。それを裏付ける聖書の言葉は思い浮かびますか？ - 彼らは何を知る必要があるか？

“見よ、兄弟が和合して共におるのはいかに麗しく楽しいことであろう。それはこうべに注がれた尊い油がひげに流れ、アロンのひげに流れ、その衣のえりにまで流れくだるようだ。またヘルモンの露がシオンの山に下るようだ。これは主がかしこに祝福を命じ、とこしえに命を与えられたからである。”

詩篇 133:1-3 口語訳

- この昇りの歌は、巡礼者に共同体の実践が不可欠であることを思い出させました。聖書の物語の中にそのことが書かれています。
- アダムとイブ – 人が一人であるのは良くない
- イエスの弟子たちは、ラビの埃まみれの足跡をたどって一緒に歩いた
- ヘブライ人への手紙の著者は、この困難な時代に互いに励まし合うために集まることを怠らないようにと私たちに思い出させています...
- イエスは私たちに、神を愛するだけでなく、自分自身を愛するように他人を愛するように呼びかけました...

しかし私はコミュニティを避けすぎている。その理由の一部は私の性格です。私は極度の内向性で、エニアグラムではタイプ 5 です (この性格プロフィールをご存知なら)。バイクで一人でグランドキャニオンまで行ったこともあります。それだけでも多くのことがわかります。

しかし、性格だけが理由ではないと思います。この詩篇を書いたダビデは、コミュニティを家族的な言葉で語っています。兄弟姉妹です。神のコミュニティが家族になるようにという美しい招待です。しかし、兄弟がいる人や、教会に長く通っている人なら、人間関係は2つの点で特徴づけられることが多いことを知っているでしょう: 紛争と競争

精神科医が兄弟間の競争という概念を研究するには理由があります。私には兄が2人、妹が1人います。私は真ん中です。一番上の兄は私より3歳年上で、妹は1歳半年上で、弟は私より3歳年下です。

対立と競争について、どんな話をしようかと迷っています... 両親が私を妹の友達の家まで車で送るように強制したときに妹が私の顔を殴ったり、食べ物なくなる前におかわりをするためにできるだけ早く食べ物を食べたりしたことなど...

しかし、人間関係における争いや競争は、あなたや私よりもずっと前から存在しています。カインとアベル (聖書に記録されている最初の兄弟) は殺人で終わり、ヨセフの嫉妬深い兄弟は彼を奴隷として売りました。イエスの兄弟でさえ、すぐにはイエスを信じませんでした...

そして、多くの人にとって、家族の比喻は、私たち自身の生家の崩壊のために私たちを怖がらせます...

だから、私たちの反応は、「私は大丈夫。この宗教的なことは一人でやるつもりだ。孤独に巡礼するつもりだ」というものです。しかし、そうすることで、私たちは他の人に対して、そして彼らが私たちに対してなれる贈り物を逃してしまいます。

私たちが巡礼し、イエスにもっと似ようと努めるとき、聖書は私たちに思い出させます。兄弟が仲良くするのはなんと美しく素晴らしいことでしょう。彼らは、お互いへの愛によって、あなたがたが私の弟子であることを知るでしょう。

兄弟間の対立、競争、そして対立が渦巻く世界において、これは私たちの世界が目指すもの、つまり愛情深く、心と精神を一つにし、つながり、献身的であることを求める、反文化的な招待なのです。

では、どうやってそれをするのでしょうか? それは、私たちがお互いをどう見ているかということにかかっています。

詩篇 133 篇の 2 つの詩的なイメージは、私たちの家庭や教会でコミュニティを奨励する働きを明らかにしています。

“それはこうべに注がれた尊い油がひげに流れ、アロンのひげに流れ、その衣のえりにまで流れくだるようだ。またヘルモン山の露がシオン山の山に下るようだ。これは主がかしこに祝福を命じ、とこしえに命を与えられたからである。”

詩篇 133:2-3 口語訳

これはとても役に立ちます。これは何を意味するのでしょうか？油。アロンのひげ。ヘルモン山の露？

油は神の存在、神の霊のしるしでした。一体となって共に暮らすことは、高価な油が頭から流れ出て私たち全員を覆うようなものです。ユージン・ピーターソンが説明するように、「神の共同体には、群衆の中で互いに押し合う人々の氷のような冷たさと硬い表面とは対照的な、温かさと安らぎの質があります。」

しかし、油は私たち一人一人を祭司として表しています。私たちがお互いを神に油を注がれた者、神の似姿として造られた者と見なすとき、何か力強いことが起こります。他の人を競争相手や対立する人々として見るのではなく、ペテロが神の巡礼者を王の祭司として描写したように、彼らを見ます... 私たちの利益のために神から与えられた者... 私たちはお互いを必要としています。

ヘイフォードが叙階式で私に油を注いでくれた話をしてください...

死から生へ、罪から自由へ、灰から美へという私たちの旅の一部には、コミュニティ内の他の人々が関わっています。お互いの重荷を分かち合い、お互いをより高いレベルへと呼び求めます。私たちはお互いをカバーし合います。私たちはお互いのために隙間を埋めます。私たちはお互いのために祈ります。

これを始める簡単な方法は、祈りの日記を作成し、そこにあなたの小グループを追加するか、近所の人を追加するか、毎週日曜日に新しい人の隣に座り、その人の名前を追加します... 祈りは私たちの上を流れる油のようにお互いをカバーします...

そして詩篇作者は、神の民が一致して共に生きることは、ヘルモン山から流れ落ちる朝露のようなものだと言います。ピーターソンが書いているように、「アルプスの露は朝の爽やかさ、豊穡の感覚、成長への純粋な期待を伝えます。信仰のコミュニティで重要なのは、神が私たちの信仰の兄弟姉妹に何をしてくださっているかに対する喜びに満ちた期待です。」

神の慈悲は毎朝新しいものです。神は毎日私たちの兄弟姉妹に働きかけておられます。私たちはお互いを、まだ到着していない旅の途中にいると見ています。神は私たちとの関わりをまだ終わらせていません。

こうした期待を持ってお互いを見るとき、私たちは信仰のコミュニティとして繁栄します。神は今日、あの人の中で何をなさっているのだろう、と。彼らを裁くのではなく、彼らに共感を示します。なぜなら、私たちも同じような扱いを望むでしょうから。

私が悪い日を過ごしたとき、妻やコミュニティに、その日に他の人にどう反応したかではなく、私が他の人に親切に接した他の多くの日に基づいて私を裁いてもらいたいと思っています。

神の慈悲は毎朝新しく、それは私たちも毎朝新しくなることを意味します。今日は潜在的な美しさと可能性に満ちた新しい日です。私は、自分が経験する数少ない悪い日ではなく、神がなさっている良い働きに基づいて自分や他の人を判断します。

実際には、これは、私たちと同じように、彼らもまだ目的地に到達していないことを知っているのに、誰にもレッテルを貼らないことを意味します。私たちは彼らを、旅の途中の仲間の巡礼者として見ることができます。神は、あなたや私、または本当にあなたを苛立たせる人々に対して、まだ終わっていません...

これは、私たちの社会でますます二極化が進む中、私を導いてくれました...私の周りでさまよう魂を導くのに...私は自分自身に、神は働きを終えていないことを思い出させます...物語はまだ完全には書かれていません...それは私に、自分自身と他の人々に恩恵、優しさ、慈悲を広げるのに役立ちました...私たちは皆同じ道を歩んでいるわけではなく、あるいは道の途中で異なる場所にいるのかもかもしれません...

インスピレーション - 記憶に残るものにする - なぜそれをする必要があるのか(メッセージを「記憶に残る」ものにし、メッセージのビジョンを再構築するクリエイティブな要素)

そして、神がこのようなコミュニティが生まれるのを見たとき、つまり、兄弟姉妹として団結して暮らす巡礼者のグループ、争いや競争がそのコミュニティの主な特徴となることを許さない人々、お互いを神に聖別され、神の似姿として造られた人々、まだ到達していない人々として見る人々...

神の存在がそこに宿り...彼はその霊を注ぎ...私たちのコミュニティ全体に油のように...毎朝降り注ぐ露のように...彼は私たちを祝福し、私たちは少し天国のように見え始めます...

私たちは神にとっても私たちのコミュニティにとっても甘い香りになります...教会の外の人々は私たちを、お互いを愛し...お互いを最もよく信じ...許し合う、多様な声を持つ魅力的なコミュニティとして見ています...

そしてそれがあなたとB4への私の祈りです...神の民が団結して共に暮らすことがどれほど素晴らしく楽しいかをあなたが経験し、あなたの関係、あなたの家族、あなたの子供、あなたの孫、そしてあなたの教会コミュニティに主の祝福がもたらされるのを見てください...

祈りましょう...